

第三回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成27年8月24日（月） 午後3時～

2. 場 所 南区役所3階会議室

3. 出席委員

佐藤委員、清本委員、兼田委員、辻田委員、金子委員、上田委員、福原委員、
吉村委員、井村委員、平川委員、赤松委員、岡委員（副会長）、宮本委員、
田中委員（会長）、金井委員、島田委員

4. 配布資料

- (1)－「会議次第」
- (2)－「委員名簿」
- (3)－「【資料1】平成27年度南区まちづくり推進事業進捗状況について」
- (4)－「【資料2】平成28年度南区まちづくり評価事業の中間報告について」

5. 次第

- (1) 開 会
- (2) 議事 ①平成27年度南区まちづくり推進事業進捗状況について
②平成28年度南区まちづくり評価事業の中間報告について
- (3) 意見交換
- (4) その他
- (5) 閉 会

6. 議事録

会 長 まず事務局から「①平成 27 年度南区まちづくり推進事業進捗状況について」の説明をお願いします。

事 務 局 まちづくり推進事業の進捗状況についてそれぞれの事業の担当課長から説明を行う。

(総務企画課長、保健子ども課長、農業振興課長、まちづくり推進課長 説明)

会 長 今の説明を聞いて、何か質問などはないか。

A 委 員 「防災フェア」が火の君文化センターであるので、来年度からは新しい城南町の消防出張所の周知も兼ねてやるといいと思った。「南区“いきいき”フェスタ」のメイン会場は、アスパルとホールに分かれていて、ホールに人がなかなか来ないので、もったいないと思う。ステージはどちらかひとつにまとめた方がよいのではないか。

次 長 「南区“いきいき”フェスタ」のステージについては、歴史文化ステージをアスパルで発表していたが、客の動線がうまくとれないという反省があった。今年はステージをメインステージに 1 本化して、アスパルホールは雨天、小雨決行時の予備ステージとして使用すること、アスパルのホワイエ部分はこれまで同様に体験コーナーとして利用することを実行委員会の会議で決定している。

総務企画課 長 今度の防災フェアでは新しく移転した消防出張所と連携する予定なので、そこで PR できればと思う。

会 長 これまでメインステージとアスパルホールのステージを分けていたのは、メインステージは外で食べ物を食べながら見ることが出来たり、太鼓などの伝統文化ステージは音の関係で室内がいいという考えだったり、それなりの理由があったと思うが、そういうところも話し合ったうえで一本化した方がよいという意見になったのか。

次 長 一番は来場者の動線の確保。前回までは外のステージと中のステージで集客力のあるステージの時間が重ならないようなタイムテーブルを組んでいたが、やはり中のホールには人がなかなか入ってこなかったのが、ステージを一本化していく方向で検討している。

会 長 他に何かないか。

B 委 員 「健康まちづくり拠点支援事業」で校区へ測定器具を配布するとあるが、今

年度の配布予定について教えてほしい。

保健子ども
課 長 生活改善に取り組まれているなど対象となる校区すべてに配布を予定している。26 ページ記載の事業展開中の校区以外のすべての校区が対象となる。担当の保健師を通じて自治協議会の会長さんに周知をするので、ぜひ申請していただきたい。

A 委 員 「子どもいきいき学びフェア」について、城南町のときに「子どもフェスティバル」というのをやっていて、火の君文化センターを会場にいろんな部屋で中学校の化学部の生徒達がきて化学実験をしたり、人形劇と一緒にやる体験をした。今回もそういう参加型のものを想定されていると思うが、センターの隣に児童館があるので、児童館・図書館と連携した取り組みが出来ればおもしろいのではないかと。児童館・図書館は来場者がとても多いので、その人達を巻き込めれば参加者も多くなると思う。

総務企画
課 長 「子どもいきいき学びフェア」は各公民館の社会教育主事が連携をして、子ども達を対象にした事業を展開している。児童館・図書館に協力してもらうことも今後検討していきたいと思う。

保健子ども
課 長 「南区“いきいき”フェスタ」では、子どもを対象にした伝承遊びコーナーを設ける。子ども達が実際に遊びを体験できることも出来るので、そちらにも参加してほしい。

会 長 A 委員や城南町が持っているノウハウを生かしてほしい。南区になってできなかったことを減らして、人が多くなったからできることを増やしてほしい。

A 委 員 子育てに関するいろいろなイベントをされているが、若いお母さん方に参加してほしいのであれば、託児の準備が必要だと思う。子どもを連れて参加しても大丈夫というところをアピールしないと子どもを預けられないお母さんは参加できないし、せっかく子育てをテーマに開催しているのに参加者は年配者ばかりになってしまうので、実際に子育てされているお父さんお母さんが参加できるような工夫を考えてほしい。

保健子ども
課 長 「子育て支援リーダー育成事業」では、実際に子育てをされているお母さん達にも参加していただいている。

会 長 「子育て支援サイト」はとてもいい取り組みだと思う。しかし、もっと多くの皆さんに「南区に住んでよかった」と実感していただきたいので、ホームページだけでなく、フェイスブックとか「南区だより」とか他の媒体も活用しながらいろんな方法で情報発信してほしい。南区の幸福度が上がるようなことを考えてほしい。

- A 委員 「子育て支援サイト」については、どうやってPRしているのか。
- 保健子ども
課 長 ホームページ、「南区だより」、「市政だより」でPRしている。
- A 委員 今回のママたちはスマホ世代だが、スマホで得る情報はあてにならないこともあり、本当に信頼できる情報がほしいという話を聞いた。子育て中のママが集まる支援センターなどでPRしてほしい。
- 保健子ども
課 長 各校区の「子育て支援サークル」などで配布できるようなチラシを準備したいと思う。
- B 委員 私の校区では、保健師さん経由で民生員に伝わったので、民生員から子育て中のママたちに話したところ、みなさん喜んで研修に行かれています。
- 会 長 「南区だより」はスマホで見れるのか。
- 事務局 「南区だより」はホームページ上でダウンロードできるようにはなっている。
- 保健子ども
課 長 本当はグーグルマップに重ねたかったが、いろんな制限があって難しい。
- 会 長 行政のサイトは信頼性はあるが、更新が遅かったり、更新されていなかったりするのが難点。
- 保健子ども
課 長 せっかく作ったので、SNSの活用もしたいが、行政の場合は1クッションおく必要があってできないため、なるべく早く更新できるように工夫している。「ウォーキングキャンペーン」については、各校区の代表者にお話をして、参加をお願いしているが、二の足を踏まれているところもあるため、ぜひ委員の皆さまからのご案内をお願いしたい。1校区10～20名で、歩数計はこちらからお渡しし、歩数をチェックしていただいただけなので、そんなに負担にはならないと思う。
- 会 長 こういうキャンペーンを知るまでに時間がかかると思う。いろんな媒体を使って広報する必要があるのではないかな。
- C 委員 体協を通じて自治会長には伝わっているが、自治会長から一般の方に伝わるのは難しいと感じた。初めての試みなので、来年から「ウォーキングキャンペーン」を定着させることによって広がっていくのではないかな。
- 会 長 それでは次の議題に移る。

事務局から南区まちづくり評価事業の中間報告としてアンケート結果の説明を行う。

事務局

(中間報告の説明)

会長 南区民 3,000 人アンケートの結果報告を事務局から行った。3 年前に行った結果と殆ど変わらないが、気になるのはこれからの定住意向調査について、移住希望の方が増えている点。それと、まちづくりビジョンを知っている方が少なかった点。

まちづくりビジョンは第 1 期まちづくり懇話会メンバーで作り上げ、いよいよ平成 28 年度からはわれわれ第 2 期のメンバーが方向性を出していくので、これから来年度のまちづくり事業についていろんなご意見をいただきたいと思う。

まずは、前回のまちづくり懇話会で阿蘇の「若きゃもん会」の取組みを視察してきたので、その感想をいただきたい。視察のご意見だけでなく、「南区をこうしたい！」という思いがあればお話していただきたい。

副会長 「若きゃもん会」は門前町商店街の 2 代目の方が頑張っていて、世代交代がうまくすすんでいる。また、自分達のまちづくりの強みと弱みをよく分析していると感じた。元気のよさとアイデアを展開させていくところがすごいなと思った。

D 委員 まず、阿蘇神社の隣にあり、場所に恵まれていると思った。また、覚悟がスゴイと思った。私も「川尻わっしょい」をしているが、彼らのように 10 万円ずつ出し合ってイベントを盛り上げることはできない。あれだけの覚悟があるからこそ、みんなが同じ方向に向かって頑張っていけるのだと感じた。

会長 私は先代の覚悟がスゴイと感じた。まだまだ 2 代目が育ちきれていない状況で代を譲るとするのは覚悟がないとできない。また、2 代目も「僕らが自由にできるのは先代の努力があったから」という話をしていて。世代交代は、両方の連携があってはじめてできること。2 代目が先代を尊敬し、たてていたのが印象的だった。

E 委員 阿蘇は商業を中心としていて、いよいよ行き詰った危機感があったので、追いこまれたからできたという状況があり、南区にはあてはまらないのでは。今、川尻は元気がいいが、次は富合か城南か。商工会が中心となって元気がいい活動をするといいのでは。幸田・力合は人も増えているので、富合・城南・天明・飽田あたりがピンチをチャンスに変えてくれればいい。

会長 たしかに、合併はピンチでもありチャンスでもある。

F 委員 商工会は飽田・天明・富合・城南のみ。他は商工会事務所の管轄。組織は違

うが、やっていることは同じ。しかし、商工会は、廃業により会員が減っている。また、商工会に加入されていない方もいる。天明は人口自体が少なくなって、人が多いところに移転される場合もあり、なかなか厳しい。

会 長 今のご意見をきくと、E委員がおっしゃるとおり、南区全体でみるのは厳しい。もう少し細かい単位で考えたほうがいいのかも。
地区毎に人口の増減などを考える必要がある。

D 委 員 富合の商工会はイベントごとに、レンコンを使った焼きそばを提供したり、フットパスを行ったりして、かなり頑張っている。こういった活動をまちづくりの中でアピールしてほしい。

会 長 今のような活動を広くアピールすることを考えないといけない。こういった活動を区が支援することはできないのか。

事 務 局 南区だよりで掲載することはできる。今年は城南と川尻でも区の支援でフットパスコースをつくるので、富合のフットパスとも連携できるように話し合いの場も設ける予定。商工会だけでなく、いろんな団体が行うまちづくり活動については行政としてできる限りの支援をしなければならないと考えている。

会 長 手上げ方式じゃないが、手が上がった人にはお手伝いしてほしい。若い人や女性や初めての人にできるだけ支援してほしい。

D 委 員 富合はレンコンやきそばなど各地域の目玉があると思うので、区役所にはそれを取りまとめて外にアピールしてほしい。

事 務 局 「南区いきいきフェスタ」などを使うことも考えたい

会 長 南区は6地域あるので、それぞれの魅力や特性を宣伝することも考えて欲しい。市民から選ばれる区にならないといけないので、商売だけでなく、子育てするなら南区という具合になってほしい。また、さきほどのD委員のお話のように各地域が切磋琢磨する場を区役所は設けて欲しい。

E 委 員 私の地域では親子スポーツ大会として、グランドゴルフ大会をしている。もちろん祖父母も参加する。南区でも子どもや親子を対象としてイベントを考えて欲しい。子どもが楽しむことができれば、その子はまた南区に戻ってくる。

会 長 スポーツとか料理とかで親子対決というのはいいアイデア。現在、親子ワークショップを南区内で実施しているが、後継者育成という観点から、子どもが参加することで将来につながると思っている。

まちづくりは答えがない。次につながる活動が大事なので、次につながる事業を来年度考えてほしい。うまくいっている事業はこのままでいいが、うまくいっていない部分については、懇話会で考えたいので、皆さん次回までに考えていただきたい。

区 長 南区でここを変えたいというのではないが、ここを伸ばしたいというはある。南区は各校区・地域の横のつながりがとても強い。しかし、各地域間のつながりが薄いように感じているので、6地域のつながりを深めることができればいいと思っている。

今年度の事業の一つに「まちづくり自慢大会」があるが、同じように各地域のB級グルメバザーとか、隣の地域の祭りに参加したりとか、各地域の横のつながりができればいいと考えている。今年、各地域の夏祭りに招待していただいたが、それぞれの地域がすばらしかった。どの地域も課題は世代交代なので、6地域の後継者である若い世代がつながってくれればと思う。

会 長 魅力と課題を両方活かせる事業ができればいい。

G 委員 区長のお話のとおり、南区は各校区のまとまりがすばらしい。天明は農業があり、漁業があり、商工会も頑張っている。このまとまりをつぶさないようにつかんで、少しずつまとめていって、活かしてほしい。

H 委員 私は自治会・コミセン活動に携わっているが、区役所が各地域の活動を吸い上げて、他の地域に広めてほしい。たとえば、画図では満月の夜に江津湖でトーナメント式の綱引きをやっている。この綱は3年ごとに練り直して、綱を作る技術をつないでいる。このような活動が南区にもあるはずだから、情報収集して広めて欲しい。また、私の校区では来年1月に成人式を行う計画をたてている。併せて模擬投票を行う予定。これがうまくいったら、来年度は校区で還暦祝いを行って、60歳になった方の自治会活動への参加につなげたいと考えている。そうしないと、自治会役員の世代交代が全くすすまない。市の公民館連合ではやっと規約を改正して年齢を制限することになった。区役所が特色を拾い上げて、他の校区に広めてほしい。また、市全体で行っているものを南区独自で開催することも考えてほしい。例えば、成人式とか、花火大会とか。現在、自治会費は年3,600円徴収していて、保護を受けていても、非課税でも徴収しているが、払わない人も増えていて、苦勞している。自治会に係る経費については、市役所から一律100万円くらい交付してほしい。

会 長 私は山都町にも関わっているが、山都町では、地域で小さい子からお年寄りまでの誕生会をみんなでやっていて、とてもいいと思っていた。今のお話のように、今までやってきた伝統とあわせて、区役所のシステムで検討していくことも大事。

- I 委員 た例えば、農漁業者とか自営業者とか婦人会とか地元に残って仕事している方はまちづくりに関心があるが、サラリーマンとか別の場所で仕事されている方は、休みなく働いている場合もあり、自分の仕事で精一杯でまちづくりに関わる余裕はない。だから、地元に残って仕事をしている方が地域のリーダーになって、勤め人を巻き込んでまちづくりをする仕組みづくりをしないとダメ。私も退職してからやっとまちづくりに関われるようになった。自治会には、若い人はおらず、若い人の意見は全くない。仕事を辞めた 60 歳以上の意見のみ。それが悪いわけではなく、高齢者からいい意見も出るが、やはり若手の意見も大事なので、若手を巻き込む工夫が必要。
- 会 長 私は南区まちづくり評価事業を請け負っているが、評価を行う南区まちづくり未来塾を立ち上げて、民間のまちづくり実践者の方に参加していただいている。今メンバーが偏っているが、6 地域から参加していただきたいと思っている。結果は懇話会にフィードバックするが、評価は自分のために行うもので、第三者がやるものではない。自己評価が基本なので、次につながる種がまければと思っている。
- J 委員 アンケートの中で、まちづくりビジョンを知っている方の割合が 2 割弱で少ないというお話があったが、2 割というのは普通だと思うし、そもそもビジョンを全員が知る必要があるのかという問題もある。また、他の区への移住希望については、高齢の女性の割合が高いことを考えると、いろんな事情があると思うので、仕方ないのではないかな。これから分析されるところなので、全体のクロス集計ではなくて、そういった個別のクロス集計により分析してほしい。
- K 委員 11 月に「南区いきいきフェスタ」があるが、飽田でも同じようなイベントを計画していて、食改員として参加するので、今日出た意見を参考にして、地域の特産物に絡めた内容で考えたい。
- L 委員 飽田はナス、富合は雁回山というように各地域で魅力・特色があるが、私が住んでいる力合は？と聞かれると何も答えられない。私はもともとどの地域の者ではないし、地域の特色と言われてもピンとこない。力合と力合西に分かれてバタバタしている状況もあり、そんなことでいいのかなと感じた。また、自治会の役員さんの後継者がいなくて、役員の打診があっても「仕事もあるし、家のこともあるし、できる人がして。」という空気がある。また、校区の体育祭の役員会で、子ども会の加入率が減っていて、役員もなり手も減っているという話を聞いた。子どもはいないけど、子ども会の役員になってお手伝いをするような世話焼きおばさんがいてもいいのかなと思い、体育祭の役員を引き受けてきた。
- 会 長 地域によって問題が違おうと思うので、各地域の中で話し合いをしながら、お互いの良い所を参考にしていければいいと考えている。